

山弓連

平成27年12月

(平成27年度 第4号)

第28回 山日・YBS 杯争奪弓道選手権大会

天候に恵まれ、秋たけなわの11月23日恒例のYBS大会が107名の参加数を得て盛大に開催されました。

女子の部は弓歴の浅い山本智子初段が無心の射で見事に優勝しました。

称号の部では竹村練士五段が連続優勝か?と息詰まる競射は、八寸的競射で決着が着き、閉会式に古屋副会長が、安定して基本の射であると講評された、標輝人教士六段が堂々優勝の栄誉に輝きました。

第28回 山日・YBS杯争奪弓道選手権大会 (結果報告書)

日時：平成27年11月23日

場所：小瀬武道館弓道場

女子の部

参加申込人数 26名 参加者 22名

予選通過者 9名

順位	氏名	支部名	段位	選予	競射結果					
優勝	山本智子	甲府	初段	2	○	○	○	○		
2位	佐藤麻紀	甲府	貳段	2	○	○	×			
3位	根津里美	笛吹	四段	4	×			遠近競射		
					3位遠近競射7名					

男子の部

参加申込人数 59名 参加者 54名

予選通過者 30名

順位	氏名	支部名	段位	選予	競射結果					
優勝	渡邊 亮	富士吉田	参段	4	○	○	○	○		
2位	長澤 和久	南ア	五段	4	○	○	○	×		
3位	渡辺幸太	上野原	五段	3	○	○	○	×		
4位	大野晃史	南ア	五段	3	○	○	×			
5位	坂牧雅夫	笛吹	参段	4	○	○	×			
					2, 3位遠近競射・4, 5位遠近競射					

称号の部

参加申込人数 32名 参加者 31名

予選通過者 12名

順位	氏名	支部名	段位	選予	競射結果					
優勝	標 輝人	笛吹	練士六段	3	○	○	○	○	八寸的	○
2位	竹村 栄寿	甲府	練士五段	2	○	○	○	○	八寸的	×
3位	柳本武彦	甲斐市	練士五段	2	○	○	×			

第22回石和清流杯争奪成人の部弓道大会

平成27年11月1日(日)

石和清流館弓道場

<近的団体の部> 3人団体 一人8射

優勝 富士吉田市 羽田穂高・桑原 良
鍵和田哲史 18中

2位 埼玉県 吉川 学・白石 唯・宮崎正範

3位 御坂町 根津里美・梶原久美子・雨宮 哲

<近的個人の部> 8射

優勝 駒ヶ根市 小澤剛志 7中 競射による

2位 富士吉田市 羽田穂高

3位 御坂町 雨宮 哲

4位 山梨大学 浅井真太郎

5位 埼玉県 宮崎正範

<遠的の部> 8射

優勝 駒ヶ根市 小澤剛志 8中 競射による

2位 甲府市 中澤国弘

3位 富士吉田市 桑原 良

4位 石和町 目光玄

5位 南佐久郡 亀岡英司

11月1日(日)秋晴れの下、第22回石和清流杯争奪成人の部弓道大会が、清流館弓道場で開催されました。今回大会の特徴は、県内大学生と県外にも参加の呼びかけを上げたということです。

おかげ様で、県内の大学生や長野県・埼玉県・静岡県からの申し込みがあり、約150名の出場選手で、にぎやかに開催できました。

石和町特産の富有柿は、今年も昼食時にふるまわれ、また参加賞・賞品としても贈られました。

弓道部員の作った暖かい「トン汁」も喜ばれました。また、今年は笛吹市地域振興促進事業より、日本古来の弓道(武道)を普及するために「弓道普及」委員会へ助成をいただき、夏の「弓道教室」には60名を超える参加がありました。この教室参加者から、今回「大会初出場」をされた方も8名(外人さん4名含む)ありました。

11月10日～17日は、「弓道普及」委員会主催で、秋の「弓道教室」が開催される予定であることを付け加えて、大会の報告とします。

報告者 石和町弓道部 古屋二三男

合 格 者 名 簿 (27年11月15日実施)					
	氏 名	支部・学校 (学年)		氏 名	支部・学校 (学年)
	初段の部			貳段の部	
1	矢沢 菜穂	菫崎 1年	1	菰原 千春	笛吹2年
2	小林 湖雪	甲陵 1年	2	小林玲子	甲府支部
3	堀内 竜椰	塩山 1年	3	佐々木 重雄	大月支部
4	田中 聖	北杜 1年	4	猪股 真帆	甲陵 2年
5	丸山 莉菜	笛吹 1年	5	阿部 帆南海	甲陵2年
6	川合 光太郎	甲陵 1年	6	矢野 智裕	笛吹 2年
7	守屋 結加	菫崎 1年	7	原野 和樹	笛吹 1年
8	熊谷 太貴	菫崎 1年	8	宮下 友希	吉田 2年
9	近藤 新大	笛吹 1年	9	浅井真太郎	山梨大医 2年
10	三澤 玲音	笛吹 1年	10	岡部 剛己	菫崎 2年
11	功刀 優依菜	菫崎 1年	11	中込 望	増穂商 2年
12	齊籐 悠太	増穂商 1年	12	堀江 康太	甲陵 3年
13	齊籐 綾	甲府東 1年	13	倉鹿野 智也	甲府支部
14	土田 高暉	甲陵 1年	14	椎山 悠	山梨大医 二年
15	忠木 楓佳	菫崎 1年	15	安村祥穂	山梨大医 2年
16	浅川 真与	甲府東 1年	16	佐々木理帆	山梨大医 2年
17	石山 尚実	笛吹 1年	17	太田 滯	山梨大医 二年
18	中島 瑞穂	菫崎 1年	18	相原寿美江	中央支部
19	小林 舞衣	富士北稜 1年	19	大澤 泰代	山梨大医 三年
20	細野 樹	菫崎 1年	20	佐藤 翔	山梨大医 3年
21	日向 美咲	菫崎 1年	21	市川 優美	山梨大医 1年
22	土橋 美紗	甲陵 1年		参段の部	
23	堀内 翔太	北杜 1年	1	大須賀 達也	甲府支部
24	斎藤 陽斗	甲陵 1年	2	長坂 五三夫	大月支部
25	伊藤 恵子	菫崎 1年	3	垣崎 雄介	山梨大医 3年
26	小林 光祐	市川 2年	4	組澤寛人	甲府支部
27	中村 萌里	甲府東 2年	5	名古屋 由佳	甲府支部
28	小尾 幸平	北杜 2年	6	内田 光紀	山梨大医 3年
29	笠井 稜馬	市川 2年		四段の部	
30	小田切 涼	増穂商 2年		竹内 甲	山梨大医 三年
31	渡邊 健太	甲府東 2年		(平成27年11月29日実施)	
32	林 真理江	市川 2年		氏 名	支部・学校 (学年)
33	久原 ゆい	山梨大医 1年		初段の部	
34	頼 禎亮	山梨大医 1年		小嶋 大瑛	甲陵高校
35	池原 希和	山梨大医 1年		下條 晃太	菫崎工業高校
36	宮ノ腰 杏	山梨大医 1年		羽田 航基	富士河口湖高校
37	矢ヶ崎 萌	山梨大医 1年		秋山 雄飛	甲府城西高校
38	宇都宮 健吾	山梨大医 1年		丹澤 拓豊	菫崎工業高校
39	水谷 隼也	山梨大医 1年		外川 竜樹	甲斐支部
40	高橋 知尋	山梨大医 1年		古屋 仁	甲府支部
41	旗原 昌志	山梨大医 1年		杉山 篤	身延支部
42	森野 洋二郎	富士吉田支部		田辺 千里	富士河口湖高校
43	青嶋 野愛	甲府西 2年		竹中 洋三	富士吉田支部
44	梶原 麻衣	富士北稜 2年		小林 和成	菫崎工高校
45	立川 さくら	吉田 2年		貳段の部	
46	堀内 朋果	吉田 2年		目下 舞子	都留文大院
47	小池 美波	富士北稜 2年		川邨千秋	甲府支部
48	渡邊 圭	吉田 2年		二宮 和仁	身延支部
				深澤 真澄	甲府支部
				参段の部	
				中村 ひとみ	甲府支部
				寺島 弘祐	甲府支部
				西尾 哲	大月支部
				進藤 高	甲府支部
				四段の部	
				棚本 佳秀	大月支部

(裏面もご覧ください)

②

期 日 平成27年11月7日(土)8日(日)
会 場 山梨県小瀬スポーツ公園武道館弓道場
講 師 窪田 史郎 先生 範士八段(中央講師)
桑田 秀子 先生 教士八段(中央講師)
天野 裕 先生 教士七段(地元講師)
佐野 辰巳 先生 教士七段(地元講師)

～1日目～

開講式の後、矢渡 射手 窪田史郎先生
介添 第一・第二介添ともに受講生

矢渡の後、介添についての講評があり、いくつかの注意点がありました。

<第一介添>

- ・第二介添から矢を受け渡された後、右腰に持ったときに矢羽の位置が高い。
- ・射手に矢を渡す際もしっかりと向きを変え、回りきってから矢を渡すこと。
- ・この時、不用意に矢を動かさず、射手に真っ直ぐに渡すようにする。

<第二介添>

- ・的と射場が八分二分になっていない。・的から5.6m位が相当する。
- ・蹲踞の時、腰が落ち、膝が開いてしまっている。・矢は一気に拭うこと。
- ・射手を待たせぬよう素早く行う。・幕は手で押して進行する。
- ・射場へ戻る際も、遅速無いように歩行する。

*介添えは射手を中心として「調和の美」を図ることを忘れないようにする。

介添講評(桑田講師)の後、受講生による一手行射(審査形式)を行う。自分の立がくるまでは、看取り稽古。

全員が行射を終え、講師の先生より講評を頂きました。その中からの注意点は以下のとおりです。

- ・入退場の時、国旗に正対していない人がいる。
- ・入場の第一歩、踏み込みは大切である。気迫を込めて行うこと。
- ・的正面に向きを変えたら、しっかりと膝を生かすこと。日頃の稽古から注意。体幹。
- ・開き足で膝頭が離れぬように注意する。被せることが基本だが、困難であれば接していれば良い。
- ・反り橋(虹型とも)の引き分けを心がける。
- ・会での伸びの線を「一本」にすること。そして油断なく詰め合う。
- ・女性は本座にて脇正面からの正面と向きを変える時、弓の末弭を斜めにスムーズに運び、男性と合わせるようにする。

この他にも、受講生一人ひとりに注意点を指摘して頂いた。男性は女性の、女性は男性の動き・所作をよく熟知していなければいけないと感じました。

午後から窪田先生による講話

- ・矢羽(トレーサビリティ)について

該当する矢羽を使用する際は、必ず証明書を携帯すること。

- ・教本(第一巻)から・・・文中の黒い点の付いている言葉が大切であり、特に注意しなければならない箇所である。基本体、縦横十文字、五重十文字等、特に大切な部分を確認。他に、一人ひとりにプリントが配られ、生気体・死気体についてと、自然の離れについて解説。

中でも、心に残った言葉は、「心は体を主とし、四肢は体を主とする」であり、普段の稽古においても、常に真剣に真摯に取り組まなくてはいけないと思いました。講話の後、射技・射術指導に移り、先ず、何も持たない状態で、基本の動作、立ち方、坐り方、礼（揖）、回り方、歩き方について細かく指導して頂きました。その後、彘を挿して弓矢を持ち、男女に分かれて（男性は窪田先生、女性は桑田先生のもと）基本動作、執弓の姿勢、跪坐、開き足の研修、及び、男性は肌脱ぎ、女性は襷さばきの研修を行いました。基本の動作においては、普段の生活の中でも意識できるように心掛けたいと感じました。その後、射場を4つに分けて、講師4名による射技指導を頂きました。受講生も意欲的に的前に立ち、各講師の先生方から細かく指導を受けることができました。

～2日目～

講師による三人1つの射礼の見取り稽古の後、射場を2つに分けて、六段以上は三人（二人）1つの射礼、五段者は持的射礼の研修。自分の立以外の人はメモを取りながら見取り稽古。

<三人1つの射礼での注意点>

- ・本座から射位まで（射場の広さにもよる）の歩数、その逆等、事前の位取りを入念に行うこと。
- ・三人で行射する際、三角形が小さくならないように注意する。
- ・射位のずれは、三番の人が正す（甲矢）。乙矢はそれに準ずる。
- ・定め座から本座、その逆の定め座に帰る道は同じであること。本座も一つ。

初めての一つの射礼で他の人に迷惑をかけてしまいましたが、良い勉強になりました。射礼をする機会は少ないので、講習会や研修会など積極的に参加し、経験を積まなくてはいけないと感じました。

午後からは質疑応答の時間があり、受講生からの質問（呼吸について、足踏みについて、四ツ矢の捌き方、失の処理、等々）に、先生方から丁寧なお答えを頂きました。中には、「甲矢と乙矢を同じように引けないが、どうしたら良いか。」という質問に対し、窪田先生から「一本に誠を尽くすのみ。稽古も審査も、いつでも全力で臨むこと。」という言葉頂きました。その為には、日常生活においても、丁寧に生活をし、精一杯、しかし淡々と生きていかなければと感じました。

質疑応答の後、射技研修に移り、1日目と同様に4名の講師から各自指導を頂きました。限られた時間の中でも、細かく指導を頂いたおかげで、次からの稽古への課題ができ、有意義な時間を過ごすことができたと思います。

閉講式にて講師から2日間の講評を頂きました。窪田先生からは、「熱意を感じる良い研修会でした。このような機会を得た小さなキッカケをヒントにして大切に稽古し、違和感を克服してゆくことです。進もうとする気持ちがなければ先はありません。諦めずに続けてゆくことが修行です。」と頂きました。「桑田先生からは、「教本第一巻の内容を今一度確認し、基本に則った稽古をすることが大切です。特に、巻末の『射法八節図解』にある小さな字のところまでよく読み、何を意味しているのかを考えること。絵の中にある赤い線で描かれている部分は、特に意味があるのでよく見て欲しい。」と頂きました。

最後に、天野裕山梨県弓道連盟会長から修了証をいただき、2日間の研修会が閉じられました。

*おわりに 私は、本当の自分を見つける為に弓を引くのだと日頃から考えています。人として生きてゆく中で起こる様々な葛藤や克服すべき苦悩や試練も、稽古を重ねてゆくことで乗り越えてゆく精神力（心）を養うことができると信じています。その中で、高い目標を持ち、ひとつずつ階段を上がることで「自分自身の弓」の他に、「人の弓」との関わりも考えなければならぬ立場になりました。まだまだ浅学で未熟さばかりが目になってしまう自分ではありますが、この様な機会に勉強させて頂いたことを無駄にすることなく、これからも精進していきたいと思っております。ありがとうございました。